

2025(令和7)年度 地域連携交流サロン (2025年12月15日開催)
 地域連携のリアルとモヤモヤを語ろう！～大学・企業・自治体の“お困りごと”から見える、次の一步～
 参加者アンケート集計結果

回答者数20名/参加者数26名(回答率:76.9%)

※設問1、2は申込時のアンケートより抜粋(回答者数26名)

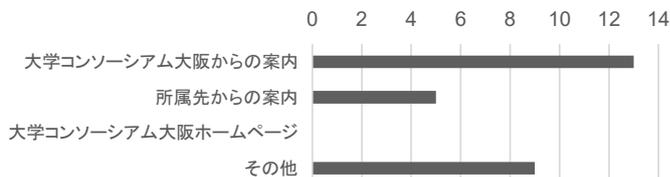
1. サロンを知ったきっかけ(複数回答可)

(単位:人)

1 大学コンソーシアム大阪からの案内	13
2 所属先からの案内	5
3 大学コンソーシアム大阪ホームページ	0
4 その他	9

※その他:Tulipメーリングリスト、登壇者・推進委員・参加者からの紹介

サロンを知ったきっかけ



2. 参加動機(自由記述)

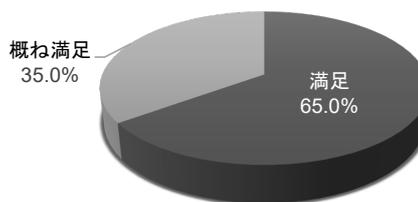
- ・ 地域連携に関心があるため、情報収集のため。(他5件)
- ・ 地域連携業務に携わっているため。(他3件)
- ・ 効果的な地域連携を行うためのヒントを得るため。(他1件)
- ・ 人的ネットワークを広げるため、自治体・企業・大学の方とコミュニケーションを図りたいため。(他1件)
- ・ 話題提供者の話を聴きたかったため。(他1件)
- ・ 研究や学生指導のなかで社会課題解決のための教育について考えることが多く、興味をもったため。
- ・ 自治体や企業との連携活動が年々増え、今後の活動に役立てたいため。
- ・ 多様な市区町村から連携協定の申し出があるが、どんな連携ができるか双方で分かりかねて進んでいない実態があるため。
- ・ 大学と連携して、学生への学びの提供や地域活性化の方法を見つけたいから。

3. サロン全体の満足度について

(単位:人)

1 満足	13
2 概ね満足	7
3 満足できない点があった	0
4 不満	0

サロン全体の満足度



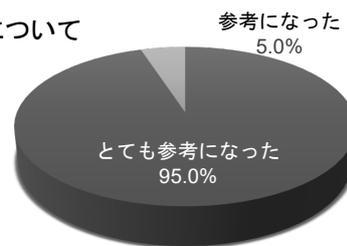
4. 話題提供について

(茨木市・明星金属工業株式会社)

(単位:人)

1 とても参考になった	19
2 参考になった	1
3 あまり参考にならなかった	0
4 参考にならなかった	0

話題提供について



【上記を選んだ理由】

※とても参考になった、参考になったと回答

- ・ 具体的な事例、様々な取り組みについて聞くことができたから。(他6件)
- ・ 企業側の考え方が理解できた。(他1件)
- ・ 大学と連携するうえで考えること、企業内での動機付け、場の作り方、コーディネーターとして必要なことなどが参考になった。
- ・ 企業が自治体との関係を築くにあたり、相当な苦勞のうえで現状に漕ぎつけているというのがひしひしと伝わった。
- ・ 上田社長のお話がとても参考になったため。

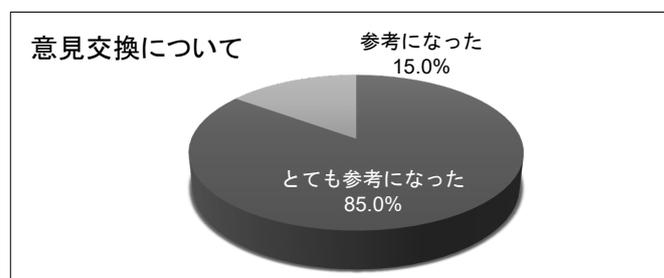
- ・ 熱心な意見交換がされていて、大変勉強になった。
- ・ 初めて参加し、色々な連携の形があるのだと教えていただいた。
- ・ キャリア教育推進、人材育成の点で勉強になった。
- ・ 持っていた疑問に対する考え方やヒントを得ることができた。
- ・ 「事業継続のためには地域のオーナー系中小企業を巻き込むことが重要」というのが参考になった。
- ・ 人の資質、心構え、スタートアップ、連携の仕組み、プロセス、認知度拡大、ブランディングなど多岐に渡り参考になった。
- ・ 企業と行政の関わりや距離感等が非常に参考になったため。

茨木市は、よい人材がよい回転で成功した事例であり、明星金属は社長の熱き想いで様々な取組みを推進されている。いずれも、人材と環境条件が重なったものであり、このような状況を作ることができれば、いくつか成功例も増えそうに思った。

5. 意見交換について

(単位:人)

1 とても参考になった	17
2 参考になった	3
3 あまり参考にならなかった	0
4 参考にならなかった	0



【上記を選んだ理由】

※とても参考になった、参考になったと回答

- ・ 様々な立場の方の多面的な姿勢、意見や疑問、考え方を知ることができたため。(他7件)
- ・ これからの自分の業務の力となりそうなたくさんのポジティブな考え方や姿勢、ヒントがあった。
- ・ 行政、大学の抱える課題を共有できたため。
- ・ 参加者からの質問に対する登壇者各位の回答が非常に理解しやすく尤もな内容だった。
- ・ それぞれの悩みに答えていただいたことで、取り組みに対する考えが深まった。
- ・ 「他者を排除せず合意形成に向かう」という考え方が非常に参考になった。
- ・ 地域連携を行ううえでのマインドについても学ぶことができた。
- ・ 関わりのある方に会えたため。
- ・ 参加者が多いので、3~4名のワークショップ形式で座談会を盛り込んでもよさそうだった。

6. 今後参加してみたいサロンのテーマ

- ・ 大学間で連携する社会連携、地域連携
- ・ 大学側の社会連携事業企画・実施のプロセスや体制、要点について
- ・ 自治会と地元企業の連携事例
- ・ 多様な主体が連携した自治会活動の参加率の向上及び担い手不足の解消
- ・ 今後必要となる新しい教育内容とその方法について

7. その他、サロンの感想や上記で回答した以外の意見等

- ・ 大学の地域連携に対する意識の高まりを感じることができた。
- ・ 大学の職員になって初めての参加だったが、非常にためになるサロンだった。
- ・ 職場環境の関係で常連になることは難しいと思うが、今後も機会を見計らって参加したい。
- ・ コンソーシアム大阪でコーディネーターを雇って内容を吟味した後に、関係者同士を繋ぐようなことはできないだろうか。